

# 年頭のご挨拶

奥出雲町長 井上勝博

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

先ずもつて心からお慶びを申し上げます。

昨年は、三月十一日に日本観測史上最大規模の東日本大震災が発生し、多くの尊い命が失われ、現在もなお安否が判らない方々が多数いらっしゃるなど、自然災害の怖さを痛感し、命の尊さについて深く考えさせられた一年でした。奥出雲町からも、給水車による給水支援、保健師の派遣、ペットボトル飲料水の物資支援など被災地支援に取り組み、感謝状を頂戴するなど、人と人との絆の大切さを改めて認識した年であつたように思います。被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

本町では、各地区において地域防災講座を開催し、多数の町民の皆様にご参加いただきました。今後、地域防災計画の見直しや自主防災組織の体制づくりなど、安心して暮らすことのできるまちづくりを目指して参りたいと考えております。

また、まちづくりの基本指針となる「奥出雲町総合計画」を昨年三月に策定し、「心豊かで潤いと活力のある奥出雲」を目標として参りたいと考えております。

このように、町内では、横田高校男子ホッケー部が全国高校総体で無失点優勝、将棋女流タイトル・倉敷藤花戦の開催、東京藝術大学との交流事業など、多くの明るい話題があつたほか、百年の大計と言わされた尾原ダムが完工、ダム湖周辺には自転車競技とボート競技の二施設が竣工したところです。

一方、経済に目を転じますと、国内企業の多くが東日本大震災からは立ち直りつつあるものの、急激な円高や世界同時株安、電力不足など先行き不安の要因を抱えている状況にあります。主要企業の半数以上が工場などの海外進出を加速させるとのアンケート結果もあり、国内産業の空洞化が懸念されます。

今後も、健全な財政運営を堅持しながら、引き続き、町民の皆様から要望の多い生活基盤の整備や基幹産業である農業の振興、町内企業の成長支援、観光振興施策などをすすめたいと考えております。

また、寺井理事長からは「馬木にあつた個人病院が閉院されたことで、無医地区となつており、待望の診療所開設となりました。馬木地区は、昨年一月に小馬木にあつた個人病院が閉院されました。延面積は百七十二・六平方メートルで、診察室、処置室、事務室のほか、ゆつたりとした待合室が設けられています。整備事業費は約六千八百万円。

式により、医療法人石原医院分院（寺井洋理事長）があたられます。式では、診療所前で関係者によるテープカットが行われた後、施設内を見学しました。

また、寺井理事長からは「馬木地区で医療を受けられるようになることが最大の目的。また、少子高齢化が進む中で、地域コミュニティを維持する一つの施設として、誠心誠意、診療にあたりたい」とあいさつがありました。

今後、地域の診療所」として親しまれるとともに、地域医療の一端を担う診療所として期待されます。

## 新春を飾る伝統の箱根駅伝

奥出雲町出身 東京農業大学 松原健太 選手が力走!!

関東の大学20校が出場した、伝統の「第88回東京箱根間往復大学駅伝競走大会」（1月2日・3日開催）に、奥出雲町三沢出身の松原健太選手（東京農業大学4年）が登場しました。

松原選手は、1年生から毎年箱根駅伝に出場。学生最後の今年は、チームのエースとして、第7区（21.3km・小田原～平塚）を走り抜きました。

レースでは、区間序盤から持ち味のスピードを生かし、前を走る青山学院大学を8km付近で追い抜く力走を見せ、その姿は、テレビ中継にもたびたび映し出されました。

レースを終えた松原選手は「4年の間には喜びも苦労もあったが、4年連続で箱根駅伝を走ることができて幸せ。卒業後は実業団で競技を続け、将来は日の丸を着けて走れるよう精進したい」と今後の抱負を話されました。今後、一層の活躍が期待されます。



▲声援を受け、学生最後の箱根路を力走



▲馬木小学校近くに開所した馬木診療所

## ●地区住民の念願 馬木診療所開所



▲テープカット

- ◎診療科 内科、小児科
- ◎診療時間 毎週火曜日、金曜日  
14:00~15:45  
※30分前には開所しています。

※受診には予約が必要です。

【予約、お問い合わせ先】

診療時間内：馬木診療所

電話:53-0500／有線:30-0500

診療時間外：石原医院分院

電話:52-3110



会場を馬木コミュニティセンターに移し行われた式典で、井上町長から「医療サービスの充実が求められる中、町民の信頼を得ている石原医院分院が診療にあたらることはありがたい。今後益々、馬木地区の健康増進に期待したい」と式辞が述べられました。